

2013年12月
AGCコーテック株式会社
CSR本部
TEL:03-5217-5104

- ① CSRを推進するためには、企業として問題や課題を遂行するための理念と仕組みが必要であり、これを担保するのが、コンプライアンス・企業倫理(※)とコーポレート・ガバナンスになります。

※詳細は、CSR情報通信 第3号に記載しています。

◆ コーポレート・ガバナンスとは

コーポレート・ガバナンス(Corporate Governance)は一般的には「企業統治」と訳されます。また、企業統治の意味するところは次のようなものになります。

- ・会社運営のための機構
- ・企業の意思決定の仕組み
- ・会社をあずかる経営執行者がその責任を全うすることを確保するための仕組み
- ・企業経営者、取締役、株主及びその他のステークホルダーとの間の相互関係が含まれる
- ・経営者に対する監視制度

CSRとの関係からみると、経済同友会から次のような見解が出されています。

コーポレート・ガバナンスとは、企業の持続的な成長・発展を目指して、より効率的で優れた経営が行われるよう、経営方針について意思決定するとともに、経営者の業務執行を適切に監督・評価し、動機づけを行っていく仕組みである。

◆ CSRの実践のためのコーポレート・ガバナンス

企業の持続的な発展や長期的繁栄は、さまざまなステークホルダーの貢献により成り立つと言われています。また、CSRの実践のためのコーポレート・ガバナンスは、次のように運営される必要があると考えられています。

<企業理念に基づいた経営トップのリーダーシップ>

経営トップが、自社の企業理念に基づき、CSRの実践を担保する仕組みとして、コーポレート・ガバナンスを確立するとの決定表明を行う。

<コーポレート・ガバナンス体制の構築>

経営監督と業務執行の分離、社外取締役、社外監査役の登用、取締役会の機能強化、監査役会の強化、株主総会の活性化などを有効に構築し会社全体のチェック・アンド・バランス機能を高める。

<ステークホルダーとの対話、コミュニケーションの促進>

株主はもちろんその他のステークホルダーとの調和とバランスを考慮して、企業価値の増大を目指して、ステークホルダーとの対話を促進する。

- ② **地球環境保全**は、人類と多様な生物の生存のために、世界全体で積極的に取り組まなければならない課題であるとされています。

◆ 持続可能な社会と地球環境保全

20世紀の企業経営は、経済成長による豊かな社会の実現を目指した**旺盛な経済活動**が主体であり、その結果、地球環境の許容量を超え、さまざまな**環境問題**を発生させました。

CSRの推進に当たっては、企業活動による社会と企業の持続的な発展が、**地球環境にかかる負荷**をできる限り削減し、地球の**環境許容量**や**再生能力**の範囲内に抑制する方向で、企業活動を行うことが求められています。

◆ 環境経営の実践

地球環境保全対策としては、**長期的視点**から、実現可能な計画を策定して**継続的に環境負荷の低減**に取り組むことが求められています。

具体的には次のような**3つの段階**における対応が望まれています。

【第1段階】

基本的な環境対応をする。
関係法令の順守を基本に、顧客・消費者の要望に応じた**受身の対応**をする。

【第2段階】

地球市民としての環境保全に対する使命感に基づく、**積極的な取り組み**をする。
企業として**ISO14001**の認証取得も必要である。
法令を上回る**自主的な計画**を策定して地球環境負荷の削減に積極的に取り組む。
一人ひとりの地球環境保全への**意識改革**を図り、**ボランティア活動**を推進する。

【第3段階】

地球環境保全活動が、経済的利益の創出につながるように「**環境経営**」を推進する。
事業活動が環境負荷の削減につながるよう開発計画や製造工程の改革、生産性の向上などに取り組み、全体として**環境会計が黒字**になるように**環境経営システム**を機能させる。

<参考文献:「CSRの基礎知識」日本規格協会>

以上